

- こうべまちづくり会館開館15周年記念イベント開催中 (P.1,2)
- 神戸らしい眺望景観10選を訪ねて「須磨浦山上遊園回覧展望閣からの眺め」(P.2)
- 南京町の空間形成について② (P.3)
- こうべまちづくり学校特別講座公開フォーラムのお知らせ ほか (P.4)

発行：神戸市立 こうべまちづくり会館

バックナンバーはこちら <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

こうべまちづくり会館開館15周年記念イベント開催中

こうべまちづくり会館は、昨年11月でオープン15周年を迎えました。会館では、これを記念して様々なイベントを開催中です。これまでに実施したイベントの様子を振り返ります。

■川西英「神戸百景」展



11/13から11/25まで、当会館地下1階ギャラリーにて、川西英氏の画文集「神戸百景」の展示が行われ、連日多くの方に来場いただきました。

川西英氏は、神戸を代表する版画家で、永く神戸を拠点に、このまちの持つハイカラで開放的な表情を捉えてきました。この画文集では、昭和37年発行当時の観光スポットをはじめ何気ない街角や人々の日常の生活感を切り取った素晴らしい描写を見ることができます。また、その描画の各々に当時の神戸の芸術・文化・学術・経済・行政などの各界百名の方々から熱い想いを寄せた随想や直筆原稿の一部も併せて展示されました。



■講演会「川西英の神戸百景と百人の随想」(11/21)



「神戸百景展」にあわせて、画文集の編集者の森本泰好氏と神戸ひょうご学の歴史家である園田学園女子大の田辺真人教授を招き、

画文集発行の苦労話や執筆者の人間像を交えながら、当時の神戸の様子をお話いただきました。

■都市景観条例30周年記念都市景観シンポジウム

第1部では、安田丑作神戸大名誉教授の基調講演で、今年で制定30年となる都市景観条例をはじめと



する、神戸市の景観まちづくりの取り組みを振り返りました。

第2部では、地域で住民主体の景観まちづくりに

取り組む「景観形成市民団体」4地区の代表に安田名誉教授を交え、三輪康一神戸大准教授のコーディネートでパネルディスカッションを行い、人材や活動資金の確保など各地の取り組みが紹介されました。

■市民と建築士・建築家が創るまち

12/11から12/16まで、建築士会、建築士事務所協会、設計監理協会、建築家協会などによるイベントが行われました。

◇トークイベント・アーキテツサロン(12/11)



「わたしの仕事」と題して、建築家の菅匠史氏、長尾健氏、光安義博氏による、個性的な作品や独自の取り組みの紹介がありました。

◇トークイベント・建築夜話(12/12)

「建築素材の重さと軽さ」と題して、カメラマンから瓦職人となった山田脩二氏のお話を聞きした後、建築家の柏本保氏・奥井正造氏を交えて意見交換を行いました。



◇防災講演会(12/13)

第1部では、神戸大の大西一嘉准教授から、中国・四川大地震で被災した建築とまちについての講演がありました。



第2部では、兵庫県耐震補助事業の説明と建築家の後藤周亮氏から耐震工事の実例紹介がありました。

◇近代建築をめぐるタウンウォッチング神戸元町編(12/14)

武田則明神戸山手大教授の解説で、旧三菱銀行神戸支店や海岸ビルディングなど、元町周辺の近代建築や今話題の乙仲通の街並みを巡りました。



◇地下1階ギャラリー



建築家の作品をはじめ、県内各地の町並みを紹介する「兵庫の町並み2005+2」、「建築空間におけるユニバーサルデザイン」、地域の歴史文化遺産の保存・活用など「兵庫県ヘリテージマネージャーの取り組み」のパネルのほか、今は廃墟と化した摩耶観光ホテルの模型・パネルなどが展示されました。



◇1階オープンギャラリー

12月26日まで、「すまいの耐震化パネル展」が開催されました。

12/13には、地震体験車「ゆれるん」による地震体験イベントや建築士による無料建築相談会がありました。



◇3F特別展示

11/21から引き続き12/16まで、景観行政30年の歩み、神戸らしい眺望50選10選、景観形成市

民団体の活動、市内の近代建築物などを紹介する神戸建築物語のパネル、摩耶山掬星台からの大パノラマ写真などが展示されました。



また、12/11からは、建築家の卵による設計展が併催され、大学生による設計演習の模型やパネルなどフレッシュな建築作品が展示されました。

■これからの催し

1/5～30「震災復興航空写真パネル展」・「QTVRで見る震災復興の今」、1/15～20「1000枚の写真で振り返る阪神・淡路大震災」、1/31記念フォーラム「まちづくりの若き担い手、おいに語る」、2/1「マンションと地域の共生～Part II」、2/15こうべまちづくり学校特別講座公開フォーラム「ひろがる×ひろげる まちづくり活動」など、今後も多彩な記念イベントが続きます。

詳しくは、当会館ホームページをご覧ください。

<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/7special/event.htm>

神戸らしい眺望景観 10 選を訪ねて「須磨浦山上遊園回観展望閣 (鉢伏山) からの眺め」
～市街地と須磨海岸のコントラストが魅力的～



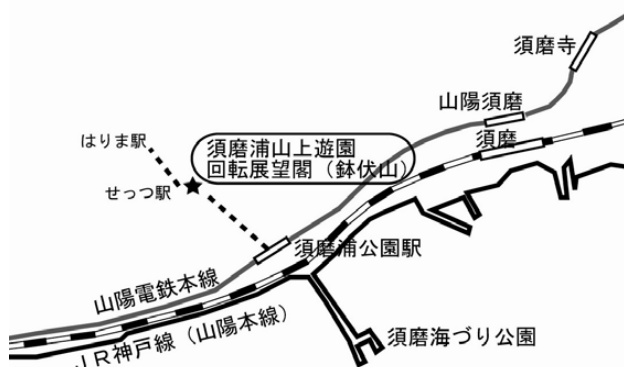
鉢伏山といえば、「源平一の谷合戦」で知られています。みなさんは、その鉢伏山から望む素晴らしい景色をご覧になりましたか。

山陽電鉄須磨浦公園駅下車すぐのロープウェイとカーレーターを利用して昇るのですが（もちろん歩いても構いませんが）、特筆すべきは、このロープウェイに乗った時の気持ちよさです。目の前の海が徐々に広がっていく光景は、とても素晴らしいものです。

その後、お目当ての回観展望閣へ。空と海が近く、開放感がたまりません。360度ぐるっと景色が楽しめ、東は須磨海浜公園から大阪方面、西は塩屋、垂水から明石海峡、淡路島まで見渡すことができますが、特に海岸線が印象的です。また、春と秋の一時期には、夕日が明石海峡大橋の主塔間に沈む様子を見ることができます。

今年の8月～10月には、地元の若手まちづくりメンバーの働きかけにより須磨浦ロープウェイや回観展望閣が期間限定で夜間営業を行っており、摩耶山とは一味違う神戸の夜景を楽しむことができました。また夜間営業される日が待ち遠しく思われます。

「海と山が出会う場所」、須磨。ぜひ一度訪れてみてください。
(都市計画総局計画部景観室)



最寄駅 山陽電鉄「須磨浦公園駅」・JR「須磨駅」
下車西へ徒歩約15分

南京町の空間形成について②

空間像研究会の活動 その8

白井 治（空間像研究会）

景観形成地区の指定

区画整理にあわせた舗装・楼門・街灯などの整備を行ってきた南京町地区ですが、1990年10月に都市景観条例に基づく沿道景観形成地区に指定され、景観形成上重要な道路や広場に面する建築物などの重点的な景観誘導を図るべく、地域景観形成基準が定められました。翌年7月には南京町景観形成協議会が景観形成市民団体に認定され、市民と行政が協働で景観づくりに取り組んできました。

まちづくり計画

協議会では、震災の前年に無電柱化を中心とした再整備計画を検討していましたが、震災で一時的に中断しましたが、1995年6月に「まちづくり計画」としてとりまとめ、7月には市に提案しました。それを受けて、地元と市、関係機関の連携により、様々な事業が行われ、南京町は震災後大きく変わることになりました。

計画では、「グルメが基本」「本物志向」「街ごと楽しむ」といったまちづくりの目標を挙げ、電柱美化・細街路整備・広場再整備・夜景の演出・銀行跡地の活用等々の具体的な計画の策定および実施により、明確な空間像をつくりあげてきています。

細街路の整備

1996年10月～翌3月、市施行の細街路復旧工事にあわせて、福建省産の錆御影石張り・龍などを彫ったレリーフ石板の設置・震災メモリアルのメッセージレンガ舗装など、地元負担でグレードアップを行い、親しみや趣きのある界限空間が完成しました。

南京町広場の再整備

1998年度には、来街者アンケートで、休憩場所の不足・案内板の老朽化・周辺での放置自転車・不法駐車などの指摘を受け、総合案内板の設置改修・街路樹の周りを石ベンチとプランターで囲む憩いのスポットづくりなどの広場の再整備を行いました。案内板には、南京町の沿革や「春節祭」について、日英中韓4ヶ国語の説明があります。

旧北拓銀行跡地（東入口南角）

協議会では、空地となっていた長安門脇について、南京町の表玄関にあたるため、廟や博物館のほか、中華会館・飲食店街・街角広場などの活用策を検討し、各方面に打診していました。その結果、地元企業により、1999年の夏に中華風外観を持った飲食物販店舗や街角広場が整備されて、東の玄関口にふさわしい空間となりました。現在、店舗に代わりホテルが建設中

ですが、計画段階から協議会との話し合いが持たれ、新たなまちかど景観の創出が期待されています。

8m道路の電柱美化化

メイン街路の電柱美化化計画は、既設電柱を街灯兼用のスリムな美化柱に建て替えて、引き込み以外の架空線を地中埋設し、頭上の繁雑な電線を整理するものです。1999年度に電線共同溝整備事業として、市、関西電力ほか関係諸団体の協力で実施され、翌年6月にすっきりとした街路景観となりました。



整備前

整備後

美化柱には中華風のランタン街灯が地元負担で設置され、異国情緒のある夜景が生まれました。また、地中化のために路面の舗石を明るい色調の研ぎ出し透水平板舗装に全面リニューアルしたこともあわせて、通り景観が一新しました。街全体が明るい印象になったのと、来街者には雨の日でも歩きやすくなり、人にやさしい空間となりました。

屋外広告物のルール化

2004年8月に、まちの個性や雰囲気をも高めるための屋外広告物のルールを新たに追加しました。規制的なルールではなく賑わいや活気を高めるような基準になっています。

西楼門と案内サイン

震災10年の節目に復興から飛躍へのシンボルにすべく計画した西楼門の改築は、「失ったものを取り戻す」「復興」を意味する『光復』の額を持つ『西安門』として2005年1月完成しました。また、3月には中国風デザインのモニュメントサインが東西南北の主要な入口に設置され、地区のエントランス空間がより明確になりました。

緑化・清掃などの活動

協議会では、良好な地区環境を維持保全するため、商店街の婦人グループ「楊貴妃会」など他団体と連携しながら、緑化・清掃活動など、清潔感やうるおいのある空間を保つ上で不可欠な地道な取り組みも継続して行っています。

こうべまちづくり会館開館15周年記念 こうべまちづくり学校〈特別講座〉公開フォーラム

ひろがる×ひろげる まちづくり

～新たなまちづくりの参加手法をまなぶ～

地域のまちづくりの課題は、市街地の整備や住環境の保全などの都市計画的な課題から、防災・防犯・環境・マナー・福祉・子育てなどの総合的課題へと“ひろがり”を見せています。また、超高齢化社会の到来を迎え、まちづくり活動を支える新たなまちづくりの担い手を発掘し、まちづくりの輪を“ひろげて”いくことが求められています。

地域の中で、従来の「ルールづくり」「ものづくり」だけでなく、新たな試みに取り組んでいる、若手まちづくりコンサルタントの皆さんを迎えて、各地域でのまちづくり活動について、取り組みの“総合性”や各プロセスにおける“参加手法”といった切り口から報告いただきます。

また、若手コンサルタントと会場の皆さんとの意見交換を通じて、新たなまちづくりのあり方を探ります。

第1部

若手まちづくりコンサルタントの活動報告

松原 永季 氏 (スタジオ・カタリスト)
田中 正人 氏 (都市調査計画事務所)
吉川 健一郎氏 (コー・プラン)

第2部

意見交換会「今の私たちにできること」

会場からの問題提起・提案などを受けて、参加者とコンサルタントの意見交換

申込方法 (1/20 必着) 定員 60 名 (参加無料)

①お名前、②性別、③年齢、④ご住所、⑤連絡先、⑥こうべまちづくり学校卒業歴の有無 (卒業生優先) を明記の上、FAX、Eメール、往復はがきで「まちづくり会館」まで

FAX: 078-361-4546

Eメール: mati2@kobe-toshi-seibi.or.jp

※申込多数の場合は抽選となります

↑ 日時: 平成21年2月15日(日)

午後2:00～午後4:30

場所: こうべまちづくり会館2階ホール

まちづくり会館 展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
1月	開館15周年記念 震災復興航空写真パネル・模型展/QTVRで見る震災復興の今	神戸市/こうべまちづくり会館
2月	北区フォトコンテスト受賞作品展	神戸市
3月	まちづくり学校パネル展	神戸市

※展示期間が変更になる場合があります。

地階ギャラリーの予定

期 間	テーマ・内容	主 催 者
1月8日(木)～13日(火)	神戸大学写真部 部展	神戸大学 写真部
1月15日(木)～20日(火)	開館15周年記念 1000枚の写真で振り返る阪神・淡路大震災	こうべまちづくり会館
1月23日(金)～27日(火)	公募写真展	(財)兵庫労働者福祉基金協会
2月12日(木)～17日(火)	第6回須磨火曜スケッチの会 作品展<水彩>	須磨火曜スケッチの会
2月19日(木)～24日(火)	第11回遊遊会水彩画展	遊遊会
2月26日(木)～3月3日(火)	きんもくせいの会展<油彩水彩他>	きんもくせいの会

※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



こうべまちづくり会館

開館時間: 午前10時～午後6時 (水曜日休館)

場 所: 元町商店街4丁目西端の南側角

地下鉄海岸線「みなと元町駅」西1出口から北へ1分

神戸高速「花隈駅」東口から南へ3分

「西元町」東口から東へ5分

JR・阪神「元町駅」西口から西へ8分

〒650-0022 神戸市中央区元町通4丁目2-14

電話: 078-361-4523 FAX: 078-361-4546

ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

コミュニティ相談センター (まちづくり会館4F)

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談

受付: 午前10時～午後6時 (水曜日休館)

ただし、印刷は5時まで

電話・FAX: 078-361-4565